

信頼に応える

社会福祉法人ふじの園
 理事長 中西 秀吉

一関藤の園の創立のため
 に尽力され、以来半世紀以
 上に渡り、当法人及び施設
 を支えてくださった久保田
 先生が、藤の花が咲き始め
 た五月七日に天国へ召され
 ました。

久保田先生とは数回ほど
 しかお会いする機会があり
 ませんでしたが、マウエル
 園長から大震災の教訓後
 に、被災した園舎の暗闇を
 奥様とお二人で励ましに来
 てくださいましたこと、また、
 多くの人が自分の中で
 精一杯の最中に私たちのこ
 とを心から案じてくださっ
 たことがどれ程嬉しかった
 ことかと話していました。

久保田先生は、敬虔なカ
 トリック信者であり、私た
 ちに人としての生き方を示
 された方でした。



児童養護施設 一関藤の園
 〒021-0061
 一関市山目字館 2-5
 Tel 0191-23-1544
 Fax 0191-23-1545
ichi.fujinosono@mirror.ocn.jp
 発行責任者
 マウエル・クリスタ

振り返ると、私たちは実
 に多くの人々たちによって支え
 られていることを実感しま
 した。それは、藤の園の再建
 時にも同様であり、日本国内
 をはじめ世界中の温かいご
 支援を頂戴しました。ご支援
 して下さった人々は、単にカ
 トリックの施設だとか、子ど
 もたちが困っているからと
 いった理由を超えた、もっと
 大きな「人間愛・人類愛」に
 近いようなお気持ちがあつ
 たように思えます。

キリストは、「友のため
 自分の命を捨てるほど大
 きな愛はない」と言ってい
 ます。私たちも自分たちの
 ためではなく、人のため
 に、人を助けるための施設
 でありたいと思っていま
 す。このことが、信頼を寄
 せ、ご支援して下さって



藤の花とマリア様

藤の園の養育理念と方針

理念や方針は、施設の存在意義や信条を明らかにしたものであり、職員の行動規範であることから、とても大切なことだと言えます。今般、理念や方針の見直しを行ない、改正しましたのでご紹介します。

- 基本理念 「祈りと感謝の心」
 私たちは、キリストの愛の精神に基づき、子どもの生命と人権を守り、自己実現と自立のために継続的な養育を通して子どもの最善の利益の実現をめざします。
- 養護方針
 私たちは、日本国憲法、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法の精神を尊重し、キリスト教の理念である愛と平和と平等をもとに子どもたちの育ちを保障し、次に掲げる養護方針を実践します。
 - (1) 私たちは、家庭的養護と子ども一人ひとりのニーズに応じた養育をおこないます
 - (2) 私たちは、子どもの発達を保障し自立支援の充実につとめます
 - (3) 私たちは、子どもの心身の回復を目指した支援をおこないます
 - (4) 私たちは、ご家族との信頼関係を築き連携・協働した支援をおこないます
 - (5) 私たちは、継続的な支援と連携アプローチによる支援をおこないます
 - (6) 私たちは、ライフサイクルを見通した支援をおこないます
- 養護目標 (目指す子ども像)
 ・「ありがとう」・「ごめんなさい」・「お願いします」と言える子どもの育成

南梅山

東ティモールという国を
 ご存じでしょうか。実は、私
 もどこにあるのかさえよく
 分かりませんでした。東ティ
 モールは、インドネシアから
 の独立を求め、多くの命と引
 き換えに、最近独立を果
 たした四国と同じくらしいの
 国です。

先日、「カンターティモ
 ル」というドキュメンタリー
 映画と独立を外国から支え
 た東ティモールのゼキトさ
 んが来園し、お話しを聴く機
 会に恵まれました。

映像からは屈託なく明る
 く歌う子どもたち、多くの家
 族や友人を亡くした家族の名
 前を身体に刻んでいる老人
 今でも電気がなく自給自足
 の生活の様子。しかし、子ど
 もたちからは悲壮感も伝わ
 ってきませんでした。伝わっ
 きたのは、子どもたちの笑顔
 と目の輝きでした。

ゼキトさんは、子どもたち
 は、みんなで育てるもの。だ
 から、コミュニケーションを大切
 にしている。一緒に学び、分か
 ち合い、自然を愛し、地球を
 労わることだと話していま
 した。何が大切なのか、何が
 幸せなのか、考えるよい機会
 となりました。

手をあわせて・・・マリア祭

5月28日、ルルド前でマリア祭を行いました。
 ルルドとは…フランスのピレネー山脈の麓の小さな町
 のことで、そこにある洞窟に1858年2月11日から7月
 16日まで聖母マリア様が18回も姿を現したと伝えられ全
 世界で有名になりました。藤の園では1979年6月23日の
 改築落成記念としてその洞窟の模造を職員と子ども達で
 作り、これまで大切にしてきました。

旧園舎を取り壊す時も新園舎を建てる時もマリア様は
 いつも私たちのそばにいて
 くださいました

これからも子ども達の
 安全な暮らしと日々の成
 長を見守って下さるよう
 にみんなで祈りをしま
 した。



すてきなミニコンサートをありがとう!

5月4日、震災以来お世話になっている衆議院議員の阿
 部知子さんとその娘さんたちによるミニコンサートがあり
 ました。プロのヴァイオリン奏者の鈴木さん、同じくトラ
 ンペット奏者の吉川さん、阿部さんの娘さんの九十田さん
 のピアノ演奏があり、その間に阿部さんの朗読があつて、
 最後にみんなで「手紙～拝啓15の君へ」を歌いました。短
 い時間でしたが、とても素晴らしい素敵な演奏会でした。
 また震災以来支援物資等
 をいただいている福島県
 楢葉町の伊藤さんご夫婦、
 松本さんにも来園してい
 ただき、福島原発のこと
 や今の福島のみなさんの
 様子を直接聞くことがで
 きました。



なかなかしびい大正琴のコンサート

6月4日に一関ビバ・アンサンブルの6名のみなさん
 による大正琴の演奏会がありました。大正琴を見るのも初め
 て、音を聴くのも初めてという子どもたちでした。心地よ
 い音色で子守唄に聴こえたような子もいましたが、演奏会
 が始まるとみんなうっとりとして聴き入っていました。

会場には、子どもたちの他に卒園生、里親さんとそのお
 子さん、ショートステイ
 の子どもたちや実習生の
 学生さんなど多彩な顔ぶ
 れでした。

色々な形でこの施設を
 どんどん利用して頂けれ
 ばと思いました。

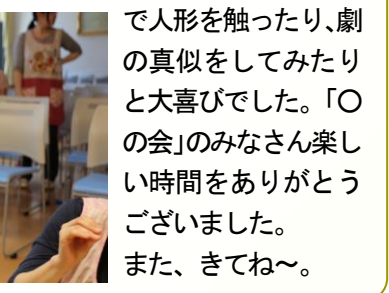


楽しかったよ!人形げき

6月14日、人形劇「Oの会」のみなさんが人形劇を開
 いてくださいました。

間近に見られる人形劇は子ども達にとって初めての経
 験でした。手作り感のある人形劇で、音楽に合わせて一緒
 に歌ったり、とても楽しい時間を過ごしました。

終わりには、人形にも触らせて頂き子ども達は興味津々
 で人形を触ったり、劇
 の真似をしてみたり
 と大喜びでした。「O
 の会」のみなさん楽し
 い時間をありがとう
 ございました。
 また、きてね。



新任職員紹介



平成二五年度は、子ども
 たちから五件、利用者のご
 家族から一件の要望苦情
 が寄せられました。利用者
 からは、他児の言動に対
 して注意して欲しいという
 内容であり、ご家族からは
 情報の提供が不足してい
 るという要望苦情でした。
 いずれの要望苦情につ
 いても対応し納得して頂
 くとともに定期的に第三
 者委員を交えての要望苦
 情委員会を開催し利用者
 の声に真摯に聴いていき
 たいと思っています。

**平成二五年度の
 苦情解決事業**

編集後記

Wカップがいよいよ始
 まりました。寝不足の日々
 が続きますが、気合を入れ
 て日本代表を応援したい
 と思います。

五月一日現在、四十人の
 子どもたちが在園してい
 ます。一人ひとりの子ども
 たちに寄り添いながら、ピ
 ンポイントで園の様子や
 子ども達の様子をお伝え
 していきたいと思ってい
 ます。

(藤の園広報委員会一同)



あの日のことを忘れずに
(東日本大震災の追悼)



はやく大きくなあれ
(ふじのそのキッズファーム)



先生にもあげるよ「あ〜ん」

幼稚園バス楽しみたお



春のお花をもって、はいチーズ!



ピカピカの一年生!

フォトアルバム

お馬さんに乗ってポクポク
(ニューシラランド村)



ホットケーキうまく焼けるかな?



わたあめおいしそうだね(園遊会)



シャボン玉 屋根までとんでけ〜



赤ちゃん落とさないように抱っこしてね(性教育講話)

地域交流園遊会

新園舎ができたことを機会に今まで以上に地域との結びつきを強め、積極的に地域のみなさんと交流を図りたいと考えています。それは、子どもたちは、地域の中で生まれ育つものという考えと先の大震災の教訓からお互いに支え合うことができるような地域のコミュニティ機能の一翼を担いたいという思いからです。

春の園遊会は、もともと日頃お世話になっている方々や子どもたちの友だちなどと呼んで楽しく過ごしたいということから30年以上前から行われてきた行事でした。しかし、近年は園の子どもたちが楽しむ行事に移り変わったため、もう一度園遊会の目的を子どもたちと考え直すことにし、より多くの方々を招待することにしました。

当日は、焼き鳥や駄菓子屋さんなど恒例のお店に加え、今年は新しく綿あめ屋さんも登場し祭りらしい雰囲気を盛り上げてくれました。飛び入りで苦情解決事業の第三者委員の小山さんによるバルーンアートのパフォーマンスや毎年ボランティアの盛岡百合高等学校のお姉さんたちとの交流、ご近所のみなさんや里親さん、学校の先生方もおいで下さり、とても気持ちの良い天気の中、大盛況に終わることが出来ました。また、売上金は、今年もカータス・ジャパンに寄附することができました。

今後も様々な機会を通して地域のみなさんとの交流をはかり藤の園を知っていただき、地域に開かれた施設作りを目指していきたいと思っています。



子どもたちは本園にある6つのユニットと地域小規模児童養護施設「マリアホーム」で生活しています。7つのホームにはそれぞれ大天使や聖人の名前がついています。これから各ホームのようすを順次ご紹介していきます。

第2段 ようこそルカホームへ



ルカホームのメンバーを紹介します。いちばん小さい4歳のおしゃまさん。小2の元気いっぱいのおやんちゃん。小4の自分の世界をもつ少女。小5の負けず嫌いの女の子。小6の小さい子のお世話が上手な女の子と見た目は反対に心はナイーブな男の子。そして中3のシャイなホームリーダーという男女混合の7人のユニットです。個性があり、性格もまったく違うホームですが、いざ緊急事態が発生して職員がバタバタしているとみんなで力を合わせ、自分たちが出来ることを考えて行動してくれるとても頼もしい子ども達です。正直、職員が“やればできるのねっ!!”と驚かされることもたくさんあります(笑)。また、誰かの誕生日には全員でお祝いの準備をして主役を盛り上げます。やりたいことは、一致団結してどこへでも行って思いっきり楽しみます。時々エネルギーがあふれてケンカになることもありますが、相手を思う気持ちはしっかり心に秘めている子ども達なので職員の心にジワ〜と染みることをしてくれます。そんな7人の毎日は波乱万丈であり新鮮です。今日も和気あいあい楽しい一日がはじまります。



★誕生日ケーキ作り★



★子ども達からのプレゼント★



★計量スプーンの使い方を教えてます★